

山城のまち 可児市を楽しもう

市内には、10カ所の山城があります。これらは、私たちの先人たちが生きた証であり、地域の暮らしに深く根付いた貴重な歴史的財産です。その魅力の詰まった4本の動画があります。さまざまな視点から山城の魅力に触れてみませんか。

1 激熱!! 山城deトーク



2 森家トーク笑 可児市山城相関図



3 可児の変 久々利金山伝令



4 KANILOG 山城のまちで女子旅編



金山城跡



金山城城下の千本桜



金山城のジオラマ

兼山に帰ってきた美濃金山城の城門

関 観光課 内 2314

現在の兼山にあった美濃金山城(以下、「金山城」)は、「関ヶ原の戦い」の際に城を崩し廃止されました。金山城を構成した天守、御殿、櫓、門などの建築物の多くは、木曾川の水運を活用し運ばれ、犬山城や城下町の建築・修繕に利用されたといわれています。この一連の出来事は「金山越し」として、兼山と犬山の両地域に伝わっています。

この時に、瑞泉寺(犬山市)に移築されたと伝わる金山城の城門が、400年以上の時を経て、3月にふるさとである兼山の地に帰ってきました。



戦国山城ミュージアム内に移築された城門

金山城と森家の軌跡

金山城は、天文6年(1537年)に斎藤大納言正義(妙春)によって築かれたとされています。当時、この城は烏峰城と呼ばれていました。永禄8年(1565年)には、織田信長の家臣である森可成が東美濃を攻略するために入城し、慶長5年(1600年)まで森氏の居城となりました。可成は、織田信長の躍進を支えた武将であり、その信頼も厚かったとされています。可成が亡くなった後は、二男の長可が城主となりました。長可はその勇猛さから鬼武蔵と恐れられ、多くの戦いで活躍しました。永禄8年に金山城で生まれた乱丸も、信長の下で多くを学んだ後、天正10年(1582年)に城主となりました。しかし、同年6月に「本能寺の変」で信長と共に討ち死にしました。

※領主が普段住んでいる城。



戦国山城ミュージアム所蔵
真書太閤記「本能寺焼討之図」
楊斎延一 明治27年(1894年)

「本能寺の変」後、再び城主となった長可は、近隣の敵対勢力を討ち、1年足らずで東美濃地域を平定しました。その後、「小牧・長久手の戦い」では羽柴秀吉に味方し、戦いに参加しました。しかし、長久手の戦いの際、徳川勢の一斉射撃によって、27歳という若さで亡くなりました。

長可亡き後、森家で最後の金山城主となったのが忠政です。忠政は、豊臣政権の主要な大名として活躍しました。現在の金山城跡は、忠政が城主だったときの遺構が残されています。

※昔の建物などの跡。



戦国山城ミュージアム所蔵
小間喜山合戦 歌川芳虎 明治2年(1869年)